

○佐原正秀委員長 他にご質疑ございませんか。

小島雄一副委員長。

○小島雄一副委員長 それでは、私からは市道整備の件につきまして質問をさせていただきます。

この問題は、昨年も全く同じように市長に尋ねた件でございますが、今年度の資料をいただきました。200件のうち1番目と2番目になっていた大沢線と上三宮南線は、これは実施の方向になるということで、2つ、順位の1番と2番ということで採用になったと。これは、上のほうから採用するというのはとてもわかりやすいし、市民からしても「ああ、そうか、あそこがなかったのか」と、「じゃ、今度は俺たちのほうが少し上がるんだろうな」と当然思うと思うんですね。ところが、ほかのところでも新しく入った地区から割り込んできたりとか、いろいろなことがありましてほとんど動きがない。上がっても一桁になるまでは何十年かかるかわからないという現状が同じように続いております。要望があるならお受けしますということで住民から受けておきながら、その実施が将来何年先になるかわからないというような現状は、これは明らかに改正しなければいけない。住民が市を不信するものになってしまうのではないかと思う深刻な内容だと思います。一応、担当課のほうから答弁もいただきましたが、新しく制度改正をするということで答弁をいただきました。しかし、一年前もそのように言っておりまして、具体的な改正は見えません。このことに対して、市長がどのように思っているのか、お尋ねいたします。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） 市内の道路整備要望路線数につきましては、現在も審査の中でお示ししたとおり約200路線ありまして、減少することなく推移しているのが現状でございます。今後、要望路線整備については、評価方法や整備手法を見直す必要があると考えておりまして、行政区に対して改めて要望内容の確認や課題解決に向けた協議を行ってまいりたいと思います。

また、整備手法については、路線全体の整備から側溝の一部敷設がえや路肩拡幅等により道路の幅員を確保するなど、要望路線の中で課題となっている箇所を改善を図る維持管理的な整備への転換について検討を進めてまいります。特に、利用者がある程度特定されている路線については、みんなの道づくりの事業の活用を積極的に図るとともに、本制度の利用を促進する改定、さらには拡充を検討してまいりたいというふうに思いますけれども、昨年と同じではないかというご質問もありましたけれども、やはり生活路線については生活に欠くことのできない路線であります。しかしながら、この200路線を見渡しますと、もう少し地元の皆さん方にこの改良というか、一部直していただければ十分幅員もとれるし、生活路線に十分な路線もあるのではないかというのは確かにあるのではないかなというふうに思っております。それらも含めて地元の皆さん方の要望をお聞きしながら、合意を図りながら事業を進めて、この200路線がなるべく少なくなるような形で今年度以降、次年度以降も進めてまいりたいというふうに思いますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○佐原正秀委員長 小島副委員長。

○小島雄一副委員長 何か一年前も同じように聞いたような気がしますが、本当に冗談のような本音の話ですけれども、我々は地元の住民からいろいろな要望を受けます。「おまえが力足りないから35億円の慶徳・豊川線はできるけれども」、金額は別としても、「何だ、村の道路もでないのか」ところ我々は言われます。「いや、申しわけございません」と頭下げなければいけないんですけれども、いずれにしても、財政が逼迫しているというのは今の矢吹委員の話でもよくわかります。だから、一発でどおんとやれなんていうことは難しいけれども、住民が納得するような制度にかえないと、受けることは受けるけれども年間できるのは1つか2つですよと、これは受けないほうがよいですよ、はっきり言えば。できないと言っているようなもんだから、最初から。なので、私はみんなの道づくりで住民も協力しながらやるという形が新しい時代のやり方かなと、私もそれには賛成します。いずれにしても、年間100万円では50メートルか60メートルくらいしかできないんですよ。そんなのでは整備してはならないのではないかなと思うんですが、この辺のみんなの道づくりの上限の見直し、あるいはそれをいつころまでに住民に示すのか、はっきりお答えください。1年待っているんですから、お願いします。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） ご答弁させていただきます。

昨年と同じ答弁ではないかというお話もありましたけれども、ご承知のように、やはり多様化する住民ニーズに応え等しく住民サービスを提供していく、喜多方市としては本当に頭の痛いところでありまして、現場の市民の皆さんと一番接している議員の皆さん方のその道路に対する思いというのは非常に市民の中から出てくると思いますが、私どもに対しても同じでございます。気持ちは同じでございます。したがって、いわゆるみんなの道づくり事業をどういう形で少しでも、今度は市で動いたと言えるような制度改正と申しますか、そういったこともあわせてやはり検討するべきではないかと思っていますし、と同時にいつからやるんだというようなことでございましたけれども、これについてもさまざまな庁内検討、横断的に検討しながら、明確になった段階でまたお示しをしたいと思っております。道については皆さん方と同じ考えでございますので、ご了解をいただきたいというふうに思います。

○佐原正秀委員長 よいですか。

〔6番、小島雄一君、自席より、「待っていますので、よろしく申し上げます」〕

○佐原正秀委員長 他にご質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○佐原正秀委員長 ご質疑なしと認めます。

以上で総括質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

これより委員による意見の取りまとめを行いますので、当局の皆さんは退席してください。  
再開時刻は追って連絡いたします。